

島田妙子さん新聞記事④

親の虐待2000日、父の自殺、兄の死、壮絶人生の信念 「どんな虐待さんも一瞬で変わることができる」
(産経新聞 2014. 6. 11)

「虐待をしてしまう大人も助けたい」。大阪の映像制作会社社長で兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザーを務める島田妙子(42)の思いは一途で強い。3年で180回を超える講演活動の芯にあるのは「虐待の元を断つ」ことだ。だが、日々生起し報道される虐待事件の数、態様をみると「果たしてそれが可能なのか」との疑問もわく。5月27日に京都市の龍谷大学で開かれた授業では、こんな場面があった。

授業は妙子の講演に何度か訪れている大学生グループが企画し、龍谷大短期大学部の赤田太郎准教授(教育学、臨床心理士)が学校カウンセリング論の授業を提供した。その中で妙子は、赤田と学生代表2人とともに「先生とはどんな存在」のテーマでパネルディスカッションした。

「経験上、虐待している親はそんな簡単に変わらないんですね。だから子供をセラピーしています」

児童養護施設で、虐待された子供たちへのセラピーを11年間にわたって続けている赤田は、いきなり妙子に“直球”をぶつけた。

これに対し妙子は、虐待が終わったあと中学2、3年を養護施設で過ごした経験として「(入所している子供に)何かしてあげたいと思ったり、ふびんな子という思いを持たないでほしいんです。大人が本気で守ってくれていると感じたら、子供は元に戻るのだから」と発言したものの、虐待する親の更生については言及しなかった。